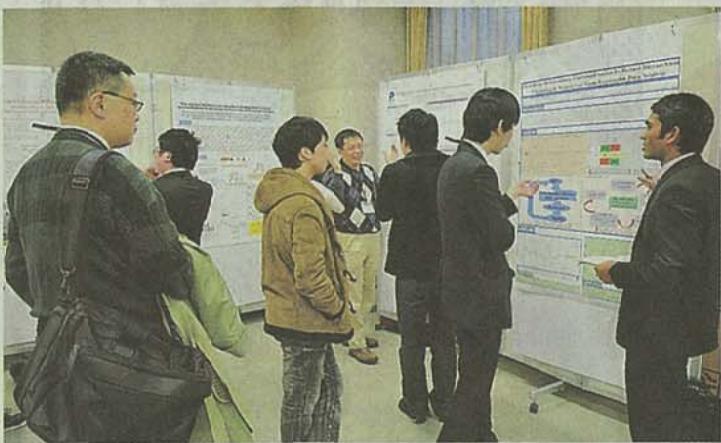


情報科学や工学 医療に生かせ

# アジアの頭脳 飯塚に



アジア各国の情報工学分野の研究者が研究成果を  
パネル展示したシンポジウム会場

国内をはじめインドや  
シンガポールなど5カ国  
の研究者も学生など38組  
新薬の開発に使う高性能

コンピューターソフトの  
製作方法などが紹介され  
た。動物実験や臨床実験  
の代わりにコンピュータ  
で細胞を再現して実験  
し、低費用・効率的な新  
薬開発を可能にするとい

う。 インド工科大学の教授  
は「遺伝子」と「代謝」  
という別々の研究分野を  
統合する意義を解説。「人  
間の細胞の働きを忠実に  
再現することで、精度の  
高い実験に役立つソフト  
を作れる」と強調した。

九工大大学院の広瀬英  
雄教授は、短文投稿サイ  
ト「ツイッター」などイ  
ンターネットを活用し、互  
いの刺激になつた。セン  
ターがアジアの研究拠点  
になれば、関連企業の誘

## きょうまで研究成果発表 九工大が国際シンポ

情報科学や工学を医療に応用する研究に取り組むアジアの研究者が飯塚市に集う国際シンポジウムが、28日から2日間の日程で始まった。この分野でアジアの研究拠点を目指す九州工業大バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター（BMITRC、飯塚市）が開設1周年を記念して初めて開催した。

致にもつながる」と開催意義を語った。シンポジウムは今後も定期的に開きたいという。  
(中野慧)